

# AI・データサイエンス教育プログラムの自己点検及び評価

## プログラムの履修・修得状況

- ・時間割との重複の配慮を考慮し、オンデマンド型の授業を実施
- ・2023 度は、履修者 1,142 名のうち、1,043 名が単位取得

## 学修成果

本教育プログラムの科目において、課題提出の際に自由記述欄を設け、講義に関するコメントを取集している。「全学的な AI・数理・データサイエンス教育の構築プロジェクト」と連携し、各科目の実施状況や受講生からのコメントを本教育プログラムの評価・改善に活用している。また大学の FD 活動として、受講生に授業アンケートを実施しており、本プログラムの科目についても同様に実施している。このアンケート結果は担当教員にフィードバックされており、本教育プログラムの評価・改善に活用している。

## 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、「全学的な AI・数理・データサイエンス教育の構築プロジェクト」において学生の理解度を分析している。特に、学生がどの部分でつまづいているか、どの具体例を用いたら良いかなど、どのような教え方が効果的なのかを把握し、授業内容にフィードバックしている。

## 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

令和 5 年度からは本プログラムの科目については必履修となったため、明示的に学生に対して他学生に本プログラムを推奨してもらうような仕組みにはしていない。受講生に対する授業アンケートにおいて満足度などの調査しており、現状では受講生は高い満足度を感じていることから、学生同士の情報交換によって高いモチベーションの確保などにつながるが見込まれる。また、受講生アンケートの結果は履修指導の際にも活用している。

## 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムを構成する科目「データサイエンス基礎」、「統計学基礎」、「AI 入門」については令和 5 年度新入生から全学必履修となり、履修者数、履修率の向上にむけて推進している。また、「全学的な AI・数理・データサイエンス教育の構築プロジェクト」会議において、各学部における数理・データサイエンス・AI 教育の内容について各専門分野からの観点も取り入れ見直し等を検討し、より学生の履修を推進している。

## 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

卒業生に対して、卒業後半年経過時点でアンケートを実施し、「学生時代により学んでおくべきだったと感じていること」、「学んでよかったと感じていること」、「社会人生活の感想」等を調査している。(アンケート回収率 80%以上)

また就職先企業・団体に対しては、本学卒業生に対する評価としてディプロマ・ポリシーの各指標の習得状況と強み・弱みについて明らかにするアンケート調査を実施している。(毎年 50 社以上を目標に調査・回収)

これらの調査結果をもとに、教育課程の見直しや各プロジェクトによる教学改革企画、就職支援体制の見直し等に活用している。

## 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

連携企業に対してアンケートを実施し、教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を収集するとともに、「全学的な AI・数理・データサイエンス教育の構築プロジェクト」においてプログラムの改善に活用する予定である。

## 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本教育プログラムは全学部を対象とした科目であることから、モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事やトレンドなど社会での実例をもとに AI 等がどのような活用をされているかを中心に好奇心を促す講義内容としている。取り上げる実例については、学生アンケート等を活用し、その内容について評価を実施している。

## 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

各担当教員が授業内容の改善を行っている。また、「全学的な AI・数理・データサイエンス教育の構築プロジェクト」にて学生アンケートを参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。